

ベトナムにおける E コマース事情

米国や中国ではもちろん、日本でもアマゾンや楽天といった E コマース(EC)業者が、小売りの実店舗を脅かす存在になっていますが、ベトナムでの E コマース事情はどうでしょうか？



全人口の 67%に相当する約 6,400 万人がインターネットを利用し、約 5,800 万人がモバイル端末でソーシャルネットワークを使用していることもあり、ベトナムでは電子商取引市場が急成長しています（2017 年～2019 年期に年平均 25%-30%成長したと推定されます）。2018 年に E コマースによる売上高は小売

り全体の 6%に相当する 80 億ドルに上り、また E コマースサイトでの購入顧客数は 4,980 万人に達しました（ベトナムの電子商取引市場は世界第 6 位にランク）。2020 通年の売上高は 130 億ドルに達すると見込まれ、その時点で小売り全体に占める割合は約 10%になると予測されます（現在、同比率は中国では約 18%、米国では約 11%）。

ベトナムには 50 以上の EC サイトが存在しますが、直近四半期の月平均来訪者数上位の EC サイトは、1 位が Shopee（ショッピング；4,077 万人、前年同期比 +65%）、2 位が Tiki（ティキ；3,570 万人、前年同期比 +58%）、3 位が Lazada

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料は CAM が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載されている特定の企業名や商品名等は当資料の理解を深めていただくために紹介したもので、個別の銘柄の推奨を目的とするものではなく、CAM の運用ファンドにその銘柄を組み入れることを保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。



(ラザダ；2,909万人、前年同期比-32%)でしたが、各社のプロモーションや評判によって順位の変動は大きくなっています。その他の業者には、Thegioididong（テーゾイジードン）や Sendo（センド）、Vatgia（バアトヤ）があり、2018年にはアマゾンも参入しています。

急激な成長を遂げるベトナムのEコマース市場ですが、課題もあります。一つはキャンセル率の高さです。ベトナムでは、人口の38%しか銀行口座を持っていないため、クレジットカードの発行数が少ないのです。そのためEC商品の配達時に、購入者の80%が代金引換を利用しています。その結果、ユーザーの返品率が推定30%と高いのが実態です。もう一つの課題は、海外製品を直接出品できる越境EC専用サイトが存在しないことです。その理由は関税手続きがあまりにも煩雑で、Eコマースの障害になっているのです。そのため、国内のECモールで販売されている海外製品は、ベトナムの業者が輸入した商品となっています。

このように課題もあるベトナムの電子商取引市場ですが、今やベトナム人の日常生活には欠かせない存在であり、また2025年までの成長率は40%とも推定されていることから、大きな可能性を秘めた市場と言えるでしょう。

以上

【参考資料】日本貿易振興会（ジェトロ）の資料・HP

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料はCAMが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料に記載されている特定の企業名や商品名等は当資料の理解を深めていただくために紹介したもので、個別の銘柄の推奨を目的とするものではなく、CAMの運用ファンドにその銘柄を組み入れることを保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。